

経営比較分析表（平成29年度決算）

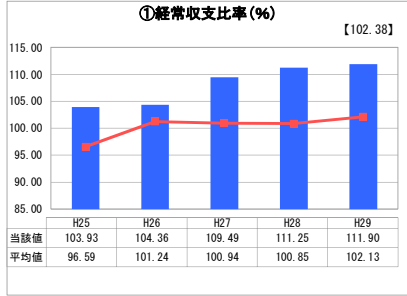
兵庫県 神河町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ ㎡当たり家賃料金(円)
-	38.86	54.13	100.00	4,485

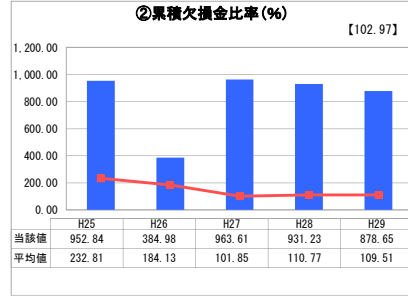
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,643	202.23	57.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,258	4.49	1,393.76

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

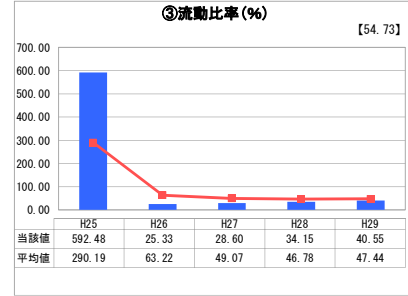
1. 経営の健全性・効率性



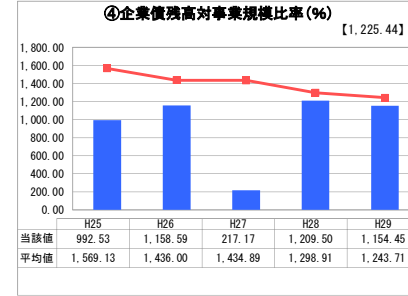
「経常損益」



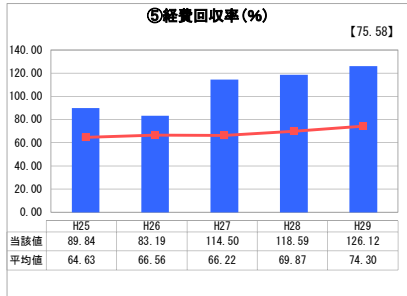
「累積欠損」



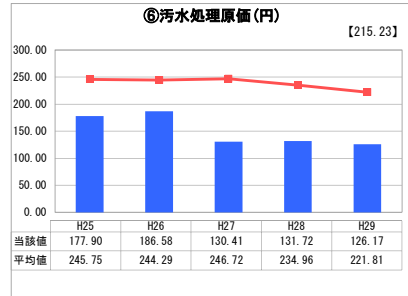
「支払能力」



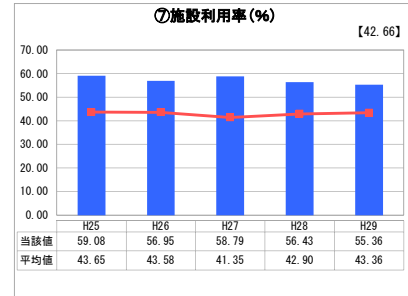
「債務残高」



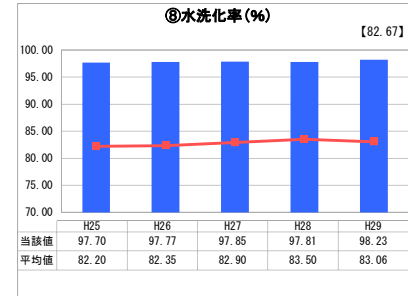
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

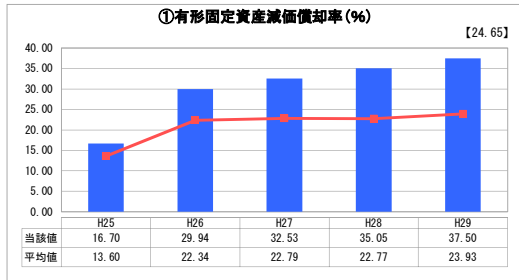


「施設の効率性」

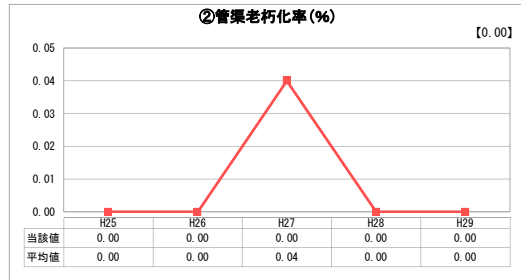


「使用料対象の捕捉」

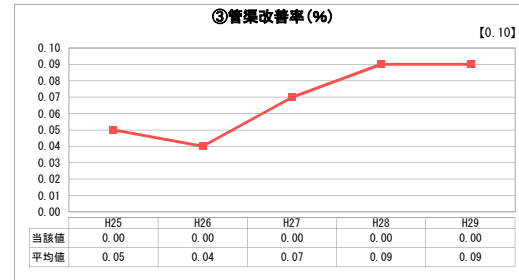
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えているものの、使用料収入は年々減少しており、一般会計からの繰入金に依存した運営になっている。現在のところ、使用料は従量制でなく人頭制を採用しており、水道料金とともに県内でも高額なため値上げは難しい状況にあるが、消費税増税の対応と併せて従量制への移行を検討している。

累積欠損比率は26年度において一般会計からの繰入金の一部を営業収益に計上していたため減少しているが、今なお多額の欠損金が残っている。早期解消に向けて経営健全化に努めていく。

2. 老朽化の状況について

管渠では管路は特に問題はないが、マンホールポンプ、中継ポンプの機械装置修繕が多くなっている。

処理場においては3ヶ所ある処理場のうち1処理場で長寿命化工事に着手しており、今後残りの2ヶ所の処理場についても実施していく。

全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含めて、全町で生活排水処理施設が整備されており、集合処理区での生活排水処理率は98.7%と高い数字で、住民の皆様へ快適な生活環境を提供している。

現在、特環公共下水施設の長寿命化計画を策定し、29年度から33年度にかけて実施設計作成及び工事に取り組んでいる。

また、統廃合についても計画を策定し、29年度には統廃合実施設計書を作成した。

下水道事業を将来にわたり継続するためには、経営の健全化・安定化が必要であり、経営戦略に基づき健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収金の収納に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。